



TOPIC 1 | 住宅省エネ2024キャンペーンがスタート、特設サイトが開設

国土交通省、経済産業省、環境省の3省連携により行う「住宅の省エネルギーフォーム支援」、国土交通省が行う「長期優良住宅及びZEH住宅の取得への支援」についての事業の総称である「住宅省エネ2024キャンペーン」の特設サイトがオープンした。

「住宅省エネ2024キャンペーン」は、国土交通省が行う「子育てエコホーム支援事業」、環境省が行う「先進的窓リノベ2024事業」、経済産業省が行う「給湯省エネ2024事業」および「賃貸集合給湯省エネ2024事業」という4つの補助事業の総称。2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて家庭部門の省エネを強力に推進するため、住宅の断熱性の向上に資する改修や高効率給湯器の導入などの住宅省エネ化への支援を強化しようとする事業で、住宅の省エネルギーフォームを支援する補助制度について、国土交通省、経済産業省、環境省の3省連携により、各事業をワンストップで利用可能としている。



住宅省エネ
2024キャンペーン
特設サイトのURLは、
<https://jutaku-shoene2024.mlit.go.jp/>

「住宅省エネ2024キャンペーン」の特設サイトは、そのポータルサイトとなるもので、今後、4つの事業に関する情報を発信していく。特設サイトとともに、「住宅省エネ2024キャンペーン補助事業合同お問い合わせ窓口」も受付をスタートした。

今後のスケジュールについては、事業者登録を1月中旬～下旬、補助金交付申請(予約を含む)の受付を3月中旬～下旬に予定している。

TOPIC 2 | 大手ハウスメーカーでも、断熱等級6仕様を標準化

住宅の断熱性能向上への動きが活発化するなか、大手ハウスメーカーで断熱等性能等級6を標準とする動きが始まった。積水化学工業 住宅カンパニーは、2024年1月から、省エネ地域区分5～7地域の一般地で展開する平屋・2階建ての戸建全商品(鉄骨系セキスイハイム・木質系ツーユーホーム)について、UA値0.46以下等を条件とする断熱等性能等級(以下「断熱等級」)6仕様を標準化する。型式認定を取得した工業化住宅を展開する大手ハウスメーカーの中で断熱等級6の標準化は先行した動きになる。

今回、付加断熱は採用せず、従来からの充填断熱のまま、既存の壁厚の中で断熱材の性能、厚みのアップを図った。基礎と躯体は高性能断熱材(※鉄骨系住宅のみ)を用い、エリア・プランにより、高断熱アルミ樹脂複合サッシや樹

脂サッシ(ペアガラス・トリプルガラス)を選択する。壁や窓の仕様ごとの性能値をあらかじめ型式認定で取得しており、それを用いて1棟ごとに面積や断熱等級6仕様のセキスイハイムの外観イメージプランに応じて標準計算ルートで精緻に計算する。年に数回、仕様追加などで継続的に型式は取り直しており、既に取得済の型式の範囲で断熱等級6に対応することができた。

また、工場の大型機械によるミリ単位の正確な施工と、雨に濡れにくい安定した作業環境下で品質を確保するとともに、スケールメリットを生かした部材共通化や物流効率化によるコスト抑制も図る。

今後、技術的な課題や市場の反応なども踏まえて、寒冷地での断熱等級6仕様の標準化も検討していく。

今知りたい情報がここにある
住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

<https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/>